

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2016(v4.0)

1 建物概要	
建物名称 新日明工場整備運営事業	BEE 1.8 BEEランク A ★★★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.7 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.4 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	3.0 / 5		ふつう
4 高齢社会への対応	3.0 / 5		ふつう
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア	
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.7
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 4.2	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3.6 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.4
<自由記述> 工場棟RCの一部に高炉セメントを使用。 ビニル床タイル、再生クラッシュラン仕様	<自由記述> 屋外は耐食性ダクトを使用。 給水やドレンにVP、 給水にVLP-VP、消火にSGPを採用。
地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.4
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア 3.8	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 3
<自由記述> 主用途がごみ焼却施設であり、多種の取り組みを計画している。	<自由記述>・屋上に雨水貯留槽を設置。敷地内植栽に利用。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 3.0
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 3	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 3 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.75 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: - 0.73 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 10.6 %
<自由記述>	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新日明工場整備運営事業	階数	地上7F
建設地	北九州市小倉北区西港町96番地の	構造	SRC造
用途地域	工業専用地域、景観形成誘導地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,500時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2021年10月20日
敷地面積	33,297 m ²	作成者	稲葉茂
建築面積	6,059 m ²	確認日	2021年11月1日
延床面積	16,074 m ²	確認者	08045-24 土肥 歩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.4</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.3</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>一般市民が使用する管理棟ゾーン、一般搬入用受入ゾーンと、施設操作がメインの操作ゾーンを分離し、利便性・安全性とともに周辺環境に配慮した配置計画としている。建物外観は小倉織錦を基調とした配色とし、市街地側の建物高さを低く抑えて周囲との調和を図っている。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>外部に面する開口部には遮音等級T-2となるサッシや鋼製扉を採用して内部への騒音を防止している。室内の科学汚染物質についてもF☆☆☆☆の製品を全面的に採用してシックハウス対策を考慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>事務室他居室の天井高を2.7mとして圧迫感を低減している。窓を設けることで開放感も確保しており、執務スペースとしての作業環境のグレードを高めている。窓にはLOW-Eガラスを採用し、居室の熱負荷低減に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>植栽配置は、前面道路や隣地に面して緑化を行い周辺環境との調和に配慮。市民が利用する管理棟アプローチ部は並木緑化を行い、環境配慮と地域住民の親しみやすさを両立している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>ごみの焼却熱によりタービンを回転させて発電している。電気は施設内施設への供給と売電により地域に還元している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>太陽光発電設備をはじめ、ハイブリット外灯雨水利用設備等採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ごみの焼却後の排ガスについては、様々な設備により現在の排出基準より大幅に低い大気汚染物質として処理している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
新日明工場整備運営事業■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							3.4
Q1 室内環境			0.31		-		3.6		
1 音環境		3.6	0.15	-	-		3.6		
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	主要な居室の外壁面アルミサッシはT-2以上を採用している。	5.0	0.60	3.0	-				
2 界壁遮音性能	-	3.0	0.40	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音	市職員事務室(床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板)	4.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-		3.0		
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温	-	3.0	0.38	3.0	-				
2 外皮性能	-	3.0	0.25	3.0	-				
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-		3.8		
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-				
1 昼光率	市職員事務室に大きな窓設置。昼光率5.5	5.0	0.60	3.0	-				
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 昼光制御	-	3.0	1.00	3.0	-				
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	-				
3.4 照明制御	現地にスイッチを配置。中央制御室のリモコンスイッチより集中照明制御が出来る。	5.0	0.25	3.0	-				
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-		4.2		
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	内装仕上げ材、小屋裏材料はF☆☆☆☆とした。	5.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		3.6	0.30	-	-				
1 換気量	換気量を30m ³ /hにて計画している。	4.0	0.33	3.0	-				
2 自然換気性能	市職員事務室の有効開口面積1/20以上	4.0	0.33	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.33	3.0	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	1.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	建物内全て禁煙。屋外設置の場合は喫煙ブース設置。	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.5		
1 機能性		3.4	0.40	-	-		3.4		
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	市職員事務所11㎡/人	4.0	0.33	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	0.33	3.0	-				
3 バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	市職員事務室CH:2.7m、窓設置。	4.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	-	2.0	0.33	-	-				
3 内装計画	-	3.0	0.33	3.0	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	内外装とも防汚性に優れ、外装は耐候性にも配慮している。	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	工場棟1階、管理棟各トイレにSKを設置。	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30	-	-		3.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	重要度係数1.25を採用している。	4.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外は耐食性ダクトを使用。	5.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水やドレンにVP、給水にVLP-VB、消火にSGP白を採用します。	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-				
3 電気設備	非常用発電、無停電設備	5.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAを採用しています。	4.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性		3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高5m	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.24	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.39	-	-	3.3
1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	市民活動を啓発できる見学者ホール、管理棟ホール	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネ適判結果根拠を添付。BPIm0.75 BEIm0.73	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	太陽光発電	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	省エネ適判結果根拠を添付。BPIm0.75 BEIm0.73	3.7	0.50	-	-	3.7
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.2	0.60	-	-	4.2
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	工場棟RCの一部に高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル、高炉セメント、再生クラッシュアラン	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+ボード。OAフロア採用。	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング等	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	一般市民駐輪場設置。	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	主用途がごみ焼却施設であり、多種の取組を計画している。	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		2.3	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	2.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	